

第54回NESRA年次大会にみられる 職場レクリエーションの動向

○浅宮佐知子（余暇問題研究所）

橋本和秀

山崎律子（余暇問題研究所）

キーワード： 職場レクリエーション NESRA 福利厚生

1. はじめに

近年、国民におけるレジャー・レクリエーション活動の意識は高まりを見せている。週休2日制や学校5日制、労働時間の短縮等により余暇時間は増大してきている。企業での福利厚生面にあたる職場レクリエーションにおいてもこれらは大きく影響をしている。

日本における職場レクリエーションについては、昭和25年文部省より刊行された「職場に於けるレクリエーションの手引き」の中で、働く者の生活向上ということを中心として考え、産業安全のためにもレクリエーションが役立つと述べている。また、昭和38年に日経連でまとめられた「職場レクリエーション」の中では職場レクリエーションの必要性として、①人間疎外、精神疲労問題対策として、②相互理解の促進策として、③若年層の人間形成のため、と記している。このような背景によって、職場レクリエーションは各企業において具体化がなされてきた。しかしながら、企業間においてお互いの活動がどのように行われているかについてはあまり知られていなかったようである。

そこで今回アメリカ産業界で行われている職場レクリエーションの実践活動を見る機会を得ることができた。アメリカにおける職場レクリエーションの歴史は古く、1800年代半ばにさかのぼる。その長い歴史の中で、職場レクリエーションの確立がされてきている。

本報告は、1995年4月に行われたNESRA年次大会に参加し、その中で伺えるアメリカの産業界で行われている職場レクリエーションの動向を探ることで今後の職場レクリエーションのあり方、方向性を見い出す資料となることを目的とするものである。

2. NESRAについて

アメリカの産業界に従事する従業員らの福利厚生およびレクリエーションの向上を目的として1941年（昭和16年）に発足をした。発足時の名称はNIRA（National Industrial Recreation Association）であった。その本部はシカゴにおかれた。現在の名称となっているNESRA（National Employee Services and Recreation Association）は1982年に改称されたものである。その歴史は54年になる。

活動は産業レクリエーションの情報提供、機関誌（Employee Services Management）の発刊、年次大会の開催などがあげられる。

会員組織の構成は、各企業におけるレクリエーションの専門家および担当者、大学等の教育機関でレクリエーションを専門とする教育者らによって構成されている。会員数は、3000人を超える。会員となる企業は就業者が5000人を超す大規模企業から1000人以下の小規模企業までの多くの企業、そして各加盟協会が会員となっている。それぞれ北東部、南東部、中西部、南西部、西部、国外の6地区に分けられる。運営は理事、事務局、各地区委員、加盟協会らにより組織されている。

日本においては、それに類似する全国組織は見当たらない。特色としては、日本における企業レクリエーションのイメージと異なり、会社とは別組織であり、名称の如く福利厚生面全般（売店活動も含め）にかかわっている。もちろん文化・趣味活動、スポーツ・フィットネス活動も抱含されている。

3. 第54回年次大会の概要

第54回年次大会(54th Annual Conference and Exhibit)はペンシルバニア州フィラデルフィア市マリOTTホテルにおいて1995年4月19日(水)～23日(日)の5日間で開催された。今大会の全体テーマとして掲げられていたのが『Capture the Spirit』(そのスピリットをつかめ)である。総参加者人数は約400人。アメリカをはじめ、カナダ、メキシコの企業が参加をしていた。日本からは報告者を含め4名のみであった。

大会は、①各種委員会、地区別委員会、理事会、②全体会議、基調講演、表彰、リセプション、晩餐会等、③分科会(レクリエーション、健康・フィットネス関連等)、④展示会(135ブース)、⑤同伴者のためのプログラム、に分類される。基調講演では「職場価値観の変化の利用について」や「眠っている有能人材の活用策」、「笑いの効用」などが話された。分科会は期間を通じて7回のセッションがあり、全体を通して45のテーマが出されていた。

4. 今大会で感じられた動向

- ①企業におけるリストラやダウンサイジングの流れを受けて、職場レクリエーションがどのように対応し、その方向性や方策をどのようにとることがよいのか、が真剣に問われていた。
- ②「ネットワークングの大切さ」が強調されていた。会議を始め、日程に組み込まれたパーティー等の各場面を利用し、お互いの情報交換を盛んに行なっていた。
- ③加盟協会のプログラムや運営の活性化およびこれに必要なリーダーシップの在り方を実践的に考えようとしていた。
- ④NESRAの組織運営では、会長は一年ごとに交代するシステムをとっている。
- ⑤大会の各方面において、女性の積極的な参加が伺えた。
- ⑥参加各人が大変に楽しんで参加しており、大会の雰囲気をも明るくしていた。
- ⑦日本の企業における福利厚生・レクリエーションについての組織・活動等について数多く質問を受けた。

5. まとめ

今回、NESRA年次大会に参加し、アメリカにおける職場レクリエーションの動向を垣間みる機会を得た。その中ではネットワークングの必要性や職場における活性化をいかにして行うのかが強調され、これを遂行しようとする積極的な姿勢・態度を伺い知ることができた。これらの状況は日本においても今後の方向を示唆するものと考えられる。日本においてはこのようなNESRAの活動は現在のところ確立されていないようである。しかしながら、企業相互の運営や活動の情報をより広く交換することは、今後の職場レクリエーションにおいて必要になるものと考えられる。